

11/10

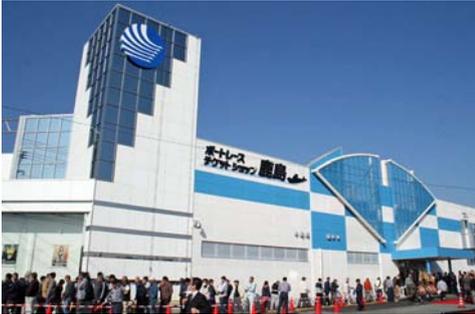
佐賀県にも場外舟券
発売場を新設

佐

賀県鹿島市に、ボートレース大村の場外発売場「ボートレースケップショップ鹿島」がオープンし、多くのファンが詰めかけました。

12番目となるこの場外発売場では、ボートレース大村とボートレース唐津の全レースをはじめ、全国発売のSG・GI競走やナイターレースなどの舟券を年間最大で360日発売します。

また、建物は鉄骨造2階建てで、駐車場も276台分を確保し、1日あたり入場者450人、売り上げ450万円を目標にしています。



11/17・18

大村湾の浄化対策に
ついて国などへ要望

大

村湾沿岸の5市5町や県などで構成する「大村湾をきれいにする会」が、県選出国会議員や環境省に対し、要望活動を行いました。

新会長の園田市長ほか一行は、高橋水・大気環境局長をはじめ、閉鎖性海域対策室長などと直接面会。重要課題の「大村湾の浄化対策」について、地元の実な声を届けました。

今後5市5町や県などと連携を強化し、さらなる大村湾の水質改善を目指し強く要望していきます。

大村湾の浄化対策を要望



11/18・19

4車線新規事業化の
必要性を訴える

官

民で組織する「国道34号等大村市内幹線道路整備促進期成会」が、県選出国会議員や国土交通省に対し、要望活動を行いました。

18日、新会長の園田市長ら10人が、西脇国土交通審議官などへ直接面会。国道34号大村・諫早間の4車線新規事業化など、地元の熱い思いを届けました。

また、翌19日には、中村県知事と大村・諫早両市合同で要望を行い、県央地域のさらなる活性化のため、新規事業化の必要性を訴えました。

国道34号大村・諫早間4車線化などを要望



11/25

「長崎街道鈴田峠」が道の駅に登録

11

月5日、「長崎街道鈴田峠」が道の駅に登録されました。その登録を受け、この日、市役所で登録証授与式が行われ、国土交通省九州地方整備局長崎河川国道事務所の木村所長から園田市長に登録証が手渡されました。

道の駅の登録は、県内で11番目、市内では初めてとなります。

現在、建設工事が進められており、3月末にオープン予定。大村の新たな観光拠点として、にぎわいが期待されています。



完成イメージ図▲

道の駅「長崎街道鈴田峠」の登録証授与式



施設の概要

地元特産品や高校生が開発したスイーツなどを販売するカフェなどを設置。

- 所在地 中里町452番地22(国道34号沿い)
- 面積 2,610平方メートル
- 施設 地域活動拠点施設(カフェ)、観光情報案内所、電気自動車(EV)用の急速充電スタンドなど
- 開業 平成28年3月末(予定)

■観光振興課(内線242)

長崎自動車道「木場スマートインターチェンジ(仮称)」建設工事



建設場所



完成イメージ図

長崎自動車道「木場スマートインターチェンジ」の建設を進めています

現

在、「木場スマートインターチェンジ」の建設を進めています。

これは、福岡方面、長崎方面のどちらからでも、24時間乗り降りができるETC車専用のインターチェンジで、車長12メートル以下の車両が通行できます。

道路課(内線424)

なお、平成30年3月末に完成する予定です。

工事期間中、周辺住民の皆さんにご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

12/2

所信表明(概要)

本市は、今後、「新幹線新大村駅(仮称)」の周辺整備をはじめとする、大型プロジェクトを着実に推進するとともに、市民が安心して楽しく活き活きと暮らせるまちづくりを念頭に、これからの4年間、次の各項目について、重点的に取り組めます。

1. 都市整備について

① 国道34号の大村・諫早間の新規事業化に向け、全力で取り組めます。

② 「新幹線新大村駅(仮称)」の周辺における都市施設を総合的かつ体系的に整備するとともに、「コンパクトな都市づくり」に取り組めます。

③ 県立・大村市立二体型図書館、コレモおむら、市民交流プラザをつなぎ合わせた3核1モールへ発展させます。

2. 教育・文化について

① 県立・大村市立二体型図書館、コレモおむら、市民交流プラザをつなぎ合わせた3核1モールへ発展させます。

② 大村の偉人や歴史を学び、子どもたちの郷土愛を育むとともに、子どもたちが芸術文化と身近に触れ合える取り組みを実施します。

③ 中学校給食については、さまざまな角度から研究し、早期実現に向けて取り組めます。

3. 経済・雇用について

① 「新工業団地」の整備を進め、積極的な企業誘致に取り組めます。

② 大村オリジナル商品の開発などを促進するとともに、がんばる企業や創業の支援など、地場産業を積極的に育成します。

③ ヒトモノのグローバル化を推進するとともに、長崎空港の24時間化に向け取り組めます。

④ 大型事業などに関しては、可能な限り市内業者が受注できる仕組みをつくり、市内経済の活性化に取り組めます。

⑤ 首都圏を中心としたマーケティングを進め、地元産物を掘り起こし、ブランド化を目指します。

⑥ 今後の公共施設整備にあたっては、地元産の木材を活用した施設の整備に努めます。

⑦ 営農コストの削減を図り、もうかる農業の実現を目指します。

⑧ TPPへの対応については、がんばる農家を積極的に支援します。

⑨ 子育て支援について

① 子ども医療費については、中学生までの拡充を目指します。

② 子育て環境の整備を行うなど、安心して子育てができるよう取り組みます。

⑩ 高齢者支援について

高齢者の皆さんが、住み慣れた地域で楽しく安心していつまでも暮らせるよう、在宅医療体制と地域包括ケアシステムを構築します。

7. 水道事業、競艇事業、病院事業について

① 水道事業については、老朽化した管路の更新を計画的に進め、健全経営に努めます。

② 競艇事業については、新しい施設を活用し、本場来場者の増加につなげるとともに、ナイターレース導入に取り組めます。

③ 病院事業については、新しい病院の整備を進め、市立大村市民病院の設置者として、2次医療の拠点としての役割を果たします。

④ 行財政改革について

① 全体的な行財政改革を実行し、安定した財政基盤を維持するとともに、効果的かつ効果的な事業運営に努めます。

② 市役所がより機能的に働くよう組織を改編します。

「市民と創る新しい大村」を目指して

これからの4年間で、「市民と創る新しい大村」を目指して、市議会をはじめ、市民の皆さまの声を受け止め、力をお借りし、市民総参加、オール大村でまちづくりに取り組めます。

【全文は市ホームページに掲載】